

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
船橋情報ビジネス専門学校	昭和56年9月22日	鳥居高之	〒 273-0005 (住所) 船橋市本町7-12-16 (電話) 047-425-1051																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人三橋学園	昭和41年9月21日	鳥居高之	〒 273-0005 (住所) 船橋市本町7-12-16 (電話) 047-425-1051																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
工業	工業専門課程	ITエンジニア科4年制		令和1(2019)年度	令和3(2021)年度																													
学科の目的	情報システム構築に必要な技術と、ネットワーク、情報インフラ、セキュリティ構築に必要な技術を合わせて習得、社会人として必要な能力の養成、企業に役立つ人材の育成を目的とします。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	4年制の学科である。卒業するまでに情報処理の国家試験を7回チャレンジでき、IT系高度情報処理技術者を目指す。 R4卒業生 情報処理技術者試験合格実績 レベル4:情報処理安全確保支援士試験4名、レベル3:応用情報技術者試験11名、レベル2:基本情報技術者試験37名、情報セキュリティマネジメント試験6名、レベル1:ITパスポート試験44名。シスコ技術者認定試験合格実績:CCNP1名、CCNA22名。 R4中途退学者1名、中退率:R4.4.1在学者205名、R5.3.31在学者204名、中退率0.5%																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
4年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間 124 単位	単位時間 173 単位	単位時間 79 単位	単位時間 0 単位	単位時間 0 単位																											
生徒総数	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																															
140人	208人	0人	0%																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>45</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>44</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>44</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>1</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>2</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>98</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>1</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) IT情報サービス業、情報通信業、一般企業の情報処理部門</p>						■卒業者数(C)	45	人	■就職希望者数(D)	44	人	■就職者数(E)	44	人	■地元就職者数(F)	1	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	2	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	98	%	■進学者数	1	人	■その他			
■卒業者数(C)	45	人																																
■就職希望者数(D)	44	人																																
■就職者数(E)	44	人																																
■地元就職者数(F)	1	人																																
■就職率(E/D)	100	%																																
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	2	%																																
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	98	%																																
■進学者数	1	人																																
■その他																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 特定非営利活動法人 私立 受審年月: 平成28年3月</p> <p>評価結果を掲載したホームページURL: https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/course_u.html</p>																																	
当該学科のホームページURL	https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/course_u.html																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>252 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>10 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>192 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>10 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間	うち必修授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総授業時数	252 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	10 単位	うち必修授業時数	192 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	10 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間																																	
うち必修授業時数	単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																	
総授業時数	252 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	10 単位																																	
うち必修授業時数	192 単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	10 単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>8人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>5人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計		8人										
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4人																																
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3人																																
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																
計		8人																																

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT業界の動向や人材ニーズを、IT企業、システム利用者、地域IT業界団体から成る教育課程編成委員会から直接情報を得て把握する。あわせて卒業生の就職先企業からの要望のアンケートも参考とする。また学校の自己評価および学校関係者評価、ならびに全生徒に対し学期末ごとに実施される授業理解度調査からも教育課程への課題を得る。これらを総合してより実践的に情報システム構築を行うシステムエンジニア、プログラマの育成をめざす教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会は学校長に任命され、年に2回以上招集される。年度末に行う委員会において教務部長から次年度の教育課程の原案を受取り委員会で審議し結果を教務部長に報告する。教務部長はこの審議結果を実務的かつ専門的な観点からの助言として、それを参考に教育課程案を作成して校長決済を受ける。この教育課程案を理事会審議にかけ承認を得て次年度の正式な教育課程とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
鳥居 高之	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
杉山 剛	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
森田 秀明	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
武次 靖雄	公益社団法人千葉県情報サービス産業協会 (株式会社 エー・シー・イー 代表取締役)	R3.10.1～R7.9.30(4年)	①
藤井 洋一	日本ナレッジ株式会社	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
宮津 隆久	船橋商工会議所	R5.10.1～R7.9.30(2年)	①
西島 富久	株式会社働楽ホールディングス	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
菅井 美賢	株式会社ピーエスシー	R5.10.1～R7.9.30(2年)	③
町田 一哉	株式会社ベイス	R5.10.1～R7.9.30(2年)	③
山崎 健太郎	株式会社myふなばし	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
中尾 佳子	株式会社サクラ	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、2月)

(開催日時(実績))

令和4年度第1回 令和4年11月 8日 17:00～18:00 令和5年度第1回 令和5年10月31日 17:00～18:00

令和4年度第2回 令和5年 2月17日 17:00～18:00 令和5年度第2回 令和6年 2月17日 17:00～18:00 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会でPython、Javaなどの言語の取組の提言があり、「AIプログラミング基礎演習」、「Pythonプログラミング演習」をカリキュラム化してきた。今後の取り組みとして「AI」関連のカリキュラム強化の助言があった。使い方を教えているが、その先は今後のテーマになる。教えるだけでは使いこなすことはできない。何をやりたいのかをはっきりさせる問題発見及び問題解決を行える力を養うことが重要である。ChatGPTをどう活用するか活用事例の研究を行い、何をインプットすると精度が高いアウトプットが得られるか。よくテーマで語られている「プロンプト」について教員も研究し、学生にどう展開するかを探っていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携する演習においては連携先企業等の担当者を定め、実習・演習の計画時、実施中、評価のそれぞれのフェーズにおいて科目担当の本校所属教員への助言等の連携を密に行う。評価においては連携の結果を生徒にフィードバックする。また、実習・演習を実践的なものにするために必要に応じて適宜、実習・演習の場にも企業等の担当者が参加する。尚、実習の・演習の企業と連携した計画は職員会議にて報告し承認を受ける。実施時の連携状況・連携結果についても適宜職員会議にて報告し指示を受ける。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ソフト開発、ネットワーク、セキュリティの各分野において、それぞれ、シスコシステムズ合同会社、Linux Professional institute(LPI)日本支社から教材提供等技術支援を受けている。それに加え株式会社SHIFT、NTT東日本から教材の提供、講師派遣の支援を受けている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ソフトウェアテスト基礎	ソフトウェア開発を学ぶ上でソフトウェア品質に関する基礎知識と基本スキルを身に付ける。	株式会社SHIFT
アジャイル開発基礎	従来のウォーターフォールモデルによる開発手法より開発期間が短縮できるアジャイル開発の基本知識の講義と演習を行う。	株式会社SHIFT
システム開発演習 I	実現場での業務を題材に、課題設定からDXツールを活用したアプリ制作、提案に至るまでの一連の課題解決授業を実施する。	東日本電信電話株式会社
シスコネットワークング演習	シスコ・ネットワークングアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワークエンジニアもしくはネットワークインフラに詳しいシステムエンジニアとして必要とされる知識とスキルを身に付ける。	シスコシステムズ合同会社
Linuxサーバー構築 I	Linux(GentOS)によるサーバーの構築を行う。インストール、基本操作、セキュリティやシステム管理の基本について演習を行う。	Linux Professional institute(LPI)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修規定に従い教員は年度研修計画通り知識技術教育・授業及び生徒に対する指導力の研修を受ける。研修計画は学科長と教務部長が教育課程編成委員会等から得た業界動向と、各教員の能力、担当業務、昇格等を基に計画する。知識技術教育はWebデザイン、情報システム構築に関し、その分野の知見のある企業等と連携する。指導力の研修も十分な知見を持つ企業等と連携する。研修の実施は企業等の主催又は講師の派遣を受ける。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Pythonを用いたWEBスクレイピング体験会	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	2023/2/13	対象:	プログラミング指導教員
内容	1.Pythonについて2.スクレイピングを行う準備3.Pythonを使用してWeb上のデータを収集		
研修名:	AWSクラウドプラクティショナー認定準備講座	連携企業等:	AWS
期間:	2023/2/24	対象:	プログラミング指導教員
内容	・AWS認定クラウドプラクティショナーについて ・各試験分野のポイントと対策		
研修名:	「VRドローン」と実機ドローンを使ったプログラミング授業	連携企業等:	大塚商会
期間:	2023/2/22	対象:	プログラミング指導教員
内容	1. プログラミング教育の取り組み 2. VRドローンのデモ3. Python入門編・応用編テキストの解説と実践		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	教科デザインと教案作成	連携企業等:	学内研修
期間:	2023/2/7	対象:	入校1-2年目の教員
内容	・教科デザインと教案作成 ・授業の組み立て方・進め方		
研修名:	担任初任者研修	連携企業等:	学内研修
期間:	2023/2/9	対象:	担当を初めて受持つ教員
内容	担当の重要度、休みにくいクラス作りに向けて、学生をあきらめない、辞めさせない、就職指導		
研修名:	資格合格に向けての準備、心構え	連携企業等:	学内研修
期間:	2023/2/28	対象:	入校3-5年目の教員
内容	なぜ資格を学生に取得させる必要があるのか・動機づけ・合格までのプロセス・テクニックと体制		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	たった60分でプロ並みのホームページができるWordPress作成初級講座	連携企業等:	株式会社Udemy
期間:	2023/8/8	対象:	プログラミング担当教員
内容	・WordPressを使ってオリジナルのブログやHPを作成する講座		
研修名:	話題のChatGPTそして生成系AIの未来を紐解く	連携企業等:	株式会社Udemy
期間:	2023/8/23	対象:	セキュリティ担当教員
内容	・ChatGPTとは・ChatGPTで何ができるのか・ChatGPTで広がる可能性・ChatGPTが拡張する学び		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	2023年度ハラスメント研修	連携企業等:	株式会社エデュースキャリアデザイン
期間:	2023/8/8	対象:	教員全員
内容	学校現場で起こりうるハラスメントの留意点を学び、事例を考察する		
研修名:	「セキュリティ人材育成コンソーシアム」教員向けセミナー	連携企業等:	セキュリティ人材育成コンソーシアム事務局
期間:	2023/8/3	対象:	教員全員
内容	・シスメックのサイバーセキュリティの取り組みについて・セキュリティ業界の仕事		
研修名:	チバテレビ「稼ぐ力養成講座」セミナー画像	連携企業等:	千葉テレビ放送株式会社
期間:	2023/9/4	対象:	教員全員
内容	・価格と価値について ・お客様を顧客へ(愛着、信頼、共感)		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の学校関係者評価委員は、評価の透明性が保てるよう全員本校の教職員以外で無償化にて参加とし、特に企業等のメンバーは職業実践的専門的評価に資する就職先業界から選出する。委員会は学校自己評価、学校の現状に関する関連資料等を踏まえて、学校自己評価の内容、今後の改善方策、実際の取組、各々が適切であるか審議し助言を行う。この助言は、学校運営、教育活動の改善と自己評価の改善方策の検討において活用する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

全体の評価を通じて特に不適とする点は委員会では指摘されなかった。教育活動及び学生支援、学修の成果について確認がなされた。課題であった企業連携授業の取組み方では、通信企業様主催でDX教育の授業を行った。実務者経験者が講師を務める講義は学生にとって大きな刺激で動機付けとなった。コロナ感染者増で学習機会の確保に苦慮したが教職員が補習等を行い高度情報処理技術者試験資格22名、応用情報技術者試験資格71名、基本情報技術者試験は448名が合格した。学生支援については高等教育無償化制度が全学科対象校として認定されており、授業料減免を受けられる体制を構築している。グローバル化対応は今後の課題として検討していくこととした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
武次 靖雄	公益社団法人千葉県情報サービス産業協会 (株式会社 エー・シー・イー 代表取締役)	R3.10.1～R7.9.30(4年)	業界団体等委員
藤井 洋一	日本ナレッジ株式会社	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
宮津 隆久	船橋商工会議所	R5.10.1～R7.9.30(2年)	経済団体委員
西島 富久	株式会社働楽ホールディングス	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
菅井 美賢	株式会社ピーエスシー	R5.10.1～R7.9.30(2年)	企業等委員
町田 一哉	株式会社ベイス	R5.10.1～R7.9.30(2年)	企業等委員
山崎 健太郎	株式会社myふなばし	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
中尾 佳子	株式会社サクラ	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: URL:https://www.chiba-fib.ac.jp/www/disclosure/hyouka_kankeisha.pdf

公表時期: 2023/11/30

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の基本情報、教育活動や学校運営についてホームページにて情報公開し広く周知する。情報公開に当たり情報の信頼度を保つため、内容変更が発生する都度、正確性、利便性等の確認の上、広報部長の承認を得る。具体的な内容は、学校の指導方針・人材養成目的、高等学校等の進路指導のための情報、職業実践専門的な実習・就職指導等の企業連携に関する情報、教育活動の成果・実績、教育プログラム等とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要と沿革、年間スケジュール
(2) 各学科等の教育	入学案内、学科案内、資格情報、就職情報、主な就職先一覧
(3) 教職員	教職員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	企業向け研修講座、IT設備、就職情報
(5) 様々な教育活動・教育環境	年間スケジュール、活動紹介
(6) 学生の生活支援	キャンパスライフ、学費支援
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧、学費支援
(8) 学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.chiba-fib.ac.jp/www/index.html>

公表時期: 2023/11/30

授業科目等の概要

(工業専門課程 ITエンジニア科4年制)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			セキュリティとネットワーク	ITパスポート試験、基本情報技術者試験合格に必要なかつ十分な「セキュリティとネットワーク」の知識を身に付ける。	1前	72	4	○			○	○			
	○			ハードウェア	ITパスポート試験、基本情報技術者試験合格に必要なかつ十分な「ハードウェア」の知識を身に付ける。	1前	36	2	○			○	○			
	○			ソフトウェア	ITパスポート試験、基本情報技術者試験合格に必要なかつ十分な「ソフトウェア」の知識を身に付ける。	1前	36	2	○			○	○			
	○			システム設計	(1)システムのライフサイクルをメインに学習する。 (2)基本情報技術者試験のシステム開発に関する範囲を学習する。	1前	36	2	○			○	○			
	○			データベース	データベースに関する基礎知識を学ぶ。	1前	36	2	○			○	○			
	○			ストラテジとマネジメント	ITパスポート試験、基本情報技術者試験合格に必要なかつ十分な「セキュリティとネットワーク」の知識を身に付ける。	1前	36	2	○			○	○			
	○			アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	論理的思考力の向上を目的とし、基本情報技術者試験の合格を目指す。Java言語演習と組み合わせ、講義と演習のハイブリット学習を行う。	1前	72	4	○			○	○			
	○			アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	論理的思考力の向上を目的とし、基本情報技術者試験の合格を目指す。Java言語演習と組み合わせ、講義と演習のハイブリット学習を行う。	1後	54	3	○			○	○			
	○			セキュリティ	前期で身に付けたセキュリティの知識を応用し、基本情報技術者試験対策を行う。	1後	36	2	○			○	○			
	○			国家試験対策	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験に合格するための学習を行う。	1後	36	2	○			○	○			
	○			応用セキュリティ	応用情報技術者試験の情報セキュリティ分野を念頭に置き、システムを安全に使用してもらうための情報セキュリティの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。	1後	18	1	○			○	○			
	○			応用プロジェクトマネジメント	応用情報技術者試験合格に向けて、プロジェクトマネジメントの基礎知識、基本となる考え方を学ぶ。	1後	18	1	○			○	○			
	○			応用プログラミング	応用情報技術者試験のプログラミング分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を学ぶ。	1後	18	1	○			○	○			
	○			応用データベース	応用情報技術者試験のデータベース分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を学ぶ。	1後	18	1	○			○	○			
	○			応用ネットワーク基礎	応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。	1後	36	2	○			○	○			

授業科目等の概要

(工業専門課程 ITエンジニア科4年制)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	16	○		Oracleデータベース演習	基礎的なデータベースの設計技術、実践的なSQLによる操作を学ぶ。	1後	36	2	○			○	○			
	17	○		Office演習	Microsoft Office Specialist (Excel) に出題される内容を網羅的に学ぶ。	1後	54	3	○			○	○			
	18	○		Java言語演習 I	Java言語のみならず、プログラミング言語一般で必要とされる制御文の役割と使い方を学ぶ。実際に手を動かし、プログラミング言語がどのようなものかを経験として身に付ける。	1前	72	4	○			○	○			
	19	○		Java言語演習 II	Java言語のみならず、プログラミング言語一般で必要とされる制御文の役割と使い方を学ぶ。実際に手を動かし、プログラミング言語がどのようなものかを経験として身に付ける。	1後	72	4	○			○	○			
	20	○		検定対策 I	ITパスポート試験、基本情報技術者試験科目A試験に合格するための学習を行う。	1前	72	4	○			○	○			
	21	○		検定対策 II	基本情報技術者試験、ジョブパス、漢字検定、MOS Excelに合格するための学習を行う。	1後	72	4	○			○	○			
	22	○		シスコネットワーク演習	シスコ・ネットワークアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワークエンジニアもしくはネットワークインフラに詳しいシステムエンジニアとして必要とされる知識とスキルを身に付ける。	2前	108	6	△	○		○	○		○	
	23	○		国家試験対策応用	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。	2後	72	4	○			○	○			
	24	○		ネットワーク構築演習 I	Cisco社が提供しているシミュレータソフト (Packet Tracer) を利用し、L2、L3レベルでの簡単なネットワークの構築、およびトラブルシューティングを行う。	2前	36	2	○			○	○			
	25	○		ネットワーク構築演習 II	Cisco社が提供しているシミュレータソフト (Packet Tracer) を利用し、L2、L3レベルでの簡単なネットワークの構築、およびトラブルシューティングを行う。また、後半では各種シナリオを用意し、実際のNW提案に関するグループワークを行う。	2後	36	2	○			○	○			
	26	○		Web技術演習 I	Webの概要と構築に必要なHTML及びCSS技術を学習する。	2前	72	4	○			○	○			
	27	○		Web技術演習 II	動的にWebページの内容を書き換えるJavaScript技術を学習する。	2後	72	4	○			○	○			
	28	○		サーバサイドプログラミング演習 I	Javaプログラミングの実践的な知識を学び、アプリケーション開発の基礎を身に付ける。	2前	72	4	○			○	○		○	
	29	○		サーバサイドプログラミング演習 II	(1) サーブレット/JSPを用いたWebアプリケーションを開発する技術を身に付ける。 (2) データベースと連携したWebアプリケーションを開発できる技術を身に付ける。	2後	72	4	○			○	○		○	
	30	○		検定対策応用 AI	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。	2前	72	4	○			○	○			

授業科目等の概要

(工業専門課程 ITエンジニア科4年制)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			検定対策応用AII	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。	2後	36	2	○			○	○			
		○		高度ネットワーク	ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。講義→演習問題→問題解説の流れを進める。	2後	72	4	○			○	○			
			○	CCNA対策講座	シスコ・ネットワーキングアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワーク技術者（もしくはネットワークインフラに詳しいシステムエンジニア）として必要とされる知識と技能を修得する。	2後	72	4	○	△		○	○			○
		○		応用ネットワーク	応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。	2前	36	2	○			○	○			
		○		検定対策応用C	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。	2前	36	2	○			○	○			
			○	検定対策応用BI	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。	2前	72	4	○			○	○			
			○	高度セキュリティI	情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に付ける。講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。	2前	72	4	○			○	○			
			○	高度セキュリティII	情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に付ける。講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。	2後	72	4	○			○	○			
			○	検定対策応用BII	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。	2後	72	4	○			○	○			
	○			クラウドコンピューティング	AWSを題材として、現代社会で利用されているクラウドコンピューティングを学ぶ。またAWSのサービスを理解しシステム構築における幅を持てるようにする。	3前	72	4	○			○	○			
			○	新技術動向	obniz等の機械によるIoTの技術の講義、実技を行う。成果物を通してレポートの作成、IT関連の情報収集を行う。	3前	36	2	○			○	○			
			○	検定対策発展A	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために学習を行う。	3後	72	4	○			○	○			
			○	プログラミング総合演習	C#を利用し、Windowsフォームアプリケーションを開発する。	3前	36	2	○			○	○			
			○	システム開発演習I	実現場での業務を題材に、課題設定からDXツールを活用したアプリ制作、提案に至るまでの一連の課題解決授業を実施する。前半は基礎知識習得に向けた座学中心の授業、後半はグループワークにて授業を進める。	3前	72	4	△	○		○	○		○	
			○	システム開発演習II	テーマに沿って、設計から実装まで行うことでWebアプリケーションを構築する力を身に付ける。	3後	144	8	○			○	○			

授業科目等の概要

(工業専門課程 I Tエンジニア科4年制)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			Linuxサーバ構築Ⅰ	Linux(CentOS)によるサーバの構築を行う。インストール、基本操作、セキュリティやシステム管理の基本について演習を行う。	3前	36	2	○	△		○			○	○
	○			Linuxサーバ構築Ⅱ	各種サーバの構築・設定を行う。	3後	72	4	○	△		○			○	○
	○			ソフトウェアテスト基礎	ソフトウェア品質に関する基礎知識、およびソフトウェアテスト設計に関する基本スキルを身に付ける。	3後	36	2	○	△		○			○	○
		○		高度セキュリティⅠ	情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に付ける。講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。	3前	72	4	○			○			○	
		○		検定対策発展BⅠ	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために学習を行う。	3前	72	4	○			○			○	
		○		検定対策発展BⅡ	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために学習を行う。	3後	72	4	○			○			○	
		○		高度セキュリティⅡ	情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に付ける。講義→演習問題→演習問題について解説という形で進行する。一部の演習問題は全員で解答を検討する。	3後	72	4	○			○			○	
		○		高度データベース	データベーススペシャリスト試験に合格するための知識や解答テクニックなどを習得する。	3前	72	4	○			○			○	
		○		検定対策発展C	各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために学習を行う。	3前	72	4	○			○			○	
	○			卒業研究Ⅰ	グループ単位でアプリ(システム)の構想、企画、設計を行い、システムの主要機能を構築する。前期では、システムの開発工程の実践と完成形のイメージを確立を行うことを中心に授業を進める。	4前	144	8	○			○			○	
	○			卒業研究Ⅱ	前期に続いて、グループ単位でシステム開発工程を実践し、システムを完成させる。持てる力を全て発揮して4年間の集大成の名にふさわしい作品となることを期待する。	4後	180	10	○			○			○	
	○			アジャイル開発基礎	スクラムのフレームワークに関する基礎知識、およびスクラムマスターとして動くための基本スキルを身に付ける。また、スクラムへの理解だけではなくアジャイル開発の中での品質保証の方法論についても学ぶ。	4前	36	2	○	△		○			○	○
	○			3DCGゲームプログラミング	ゲームエンジン(Unity)を使って、ゲームを中心とした様々なアプリケーション開発を行う。	4前	36	2	○			○			○	
	○			LPIC対策	(1)Pythonの制御構文を学習する。 (2)scikit-learnを利用し機械学習の基礎を学習する。	4前	72	4	○			○	○		○	
	○			プロジェクトマネジメント演習Ⅰ	実際の現場でのプロジェクトの問題を例題として、「原因は何か」からの「必要な知識」という流れで、プロジェクトマネジメントに対する必要な知識を習得する。	4前	36	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 ITエンジニア科 4年制)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			プロジェクトマネジメント演習Ⅱ	実際の現場でのプロジェクトの問題を例題として、「原因は何か」からの「必要な知識」という流れで、プロジェクトマネジメントに対する必要な知識を習得する。	4後	36	2		○		○				
	○			AIプログラミング基礎演習	(1)Pythonの制御構文を学習する。 (2)scikit-learnを利用し機械学習の基礎を学習する。	4後	36	2		○		○				
	○			新技術動向総合Ⅰ	新旧問わず現在利用されているさまざまなIT関連技術とニューストピックの紹介・解説を行う。1回完結での解説の他、数回程度での演習も合わせて行う。	4前	36	2	○			○				
	○			新技術動向総合Ⅱ	新旧問わず現在利用されているさまざまなIT関連技術とニューストピックの紹介・解説を行う。1回完結での解説の他、数回程度での演習も合わせて行う。その時期ごとに特に話題になっているトピックに関する紹介・解説を随時行う。	4後	36	2	○			○				
	○			検定対策総合AⅠ	社会に出た際に必要となる技術・資格を各自設定をし、計画を立てて取得に向け問題演習を実施する。	4前	36	2	○			○				
	○			検定対策総合AⅡ	社会に出た際に必要となる技術・資格を各自設定をし、計画を立てて取得に向け問題演習を実施する。	4後	36	2	○			○				
	○			高度ネットワークⅠ	ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。講義→演習問題→問題解説の流れで進める。	4前	36	2	○			○				
	○			検定対策総合BⅠ	社会に出た際に必要となる技術・資格を各自設定をし、計画を立てて取得に向け問題演習を実施する。	4前	36	2	○			○				
		○		高度ネットワークⅡ	ネットワークスペシャリスト試験および応用情報技術者試験のネットワーク分野を念頭に置き、ITの利活用には欠かすことのできないネットワークの基礎知識と、記述式試験の解答テクニックを身に付ける。講義→演習問題→問題解説の流れで進める。	4後	72	4	○			○				
	○			やってみなはれ演習Ⅰ	様々な事を題材に、社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	1前	36	2		○		○				
	○			やってみなはれ演習Ⅱ	様々な事を題材に、社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	1後	36	2		○		○				
	○			キャリアデザイン	(1)実社会でのビジネスシーンを題材に、どうすれば社会が求めるビジネスパーソンになれるのかを学習する。 (2)高いレベルで物事を考えられるビジネスパーソンを目指す。	2後	36	2	○			○				
	○			やってみなはれ演習応用Ⅰ	リーダー・フォロワー、提案、許容、協調などの資質向上を図る。	2前	36	2		○		○				
	○			やってみなはれ演習応用Ⅱ	リーダー・フォロワー、提案、許容、協調などの資質向上を図る。	2後	36	2		○		○				
	○			就職講座A	就職活動の流れを知り、自己分析や企業研究ができる力を身につける。内定をいただくためにやるべきこと、必要なことを考える。	3後	36	2	○			○				

授業科目等の概要

(工業専門課程 ITエンジニア科4年制)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
76	○		プレゼンテーション演習	プレゼンテーションの内容設計、資料デザイン、伝え方について学ぶ。	3前	36	2	○			○	○			
77	○		就職講座B I	就職活動における「自分自身の将来像・目標に向かうための心持・自己理解等」の準備、実践を行う。	3前	36	2	○			○	○			
78	○		就職講座B II	就職活動全般についての対策を行う。	3後	36	2	○			○	○			
79	○		社会人基礎力演習 I	様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	3前	36	2	○			○	○			
80	○		社会人基礎力演習 II	様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	3後	36	2	○			○	○			
81	○		ファイナルプランニング	20代から知っておきたいお金の基本について紹介する。教養として必要なお金の知識を身に付ける。	4後	36	2	○			○	○			
82	○		ビジネスコミュニケーション	社会に出るにあたっての必要なマナー、心理、プレゼンテーション力について講義を行う。	4後	36	2	○			○	○			
83	○		プレゼンテーション演習総合	プレゼンテーションの内容設計、資料デザイン、伝え方について学ぶ。	4前	36	2	○			○	○			
84	○		社会人基礎力演習応用 I	様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	4前	36	2	○			○	○			
85	○		社会人基礎力演習応用 II	様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	4後	36	2	○			○	○			
合計					85	科目	252 (4536)	単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 124単位を取得し、全ての必修科目と選択必修科目を修得していること。	1学年の学期区分	前後期
履修方法: 必修科目の他に選択必修、任意選択科目によって履修する講義・演習時間が変わる場合あり	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。